

# 『描かれた池上』 見晴台 展示のご案内



## <解説>

### 1 高橋松亭 「都南八景之内 池上」 大正 11 (1922) 年 1 月

高橋松亭(大正 10 年に弘明と改名)、本名松本勝太郎は東京市台東区浅草向柳原町(現台東区浅草橋)生まれ。9 歳頃より伯父で日本画家の松本楓湖に日本画を学びました。その前後、時期は不明ながら高橋家の養子となります。

明治40(1907)年頃、版元の渡邊庄三郎のもとで複製版画にかわるオリジナルの版画「新作版画」の制作を開始します。輸出用として製作された新作版画は国内外で高い人気を博し、関東大震災前までに大小500図以上の作品が出版されました。その後は新作版画と並行して新版画の制作にも取り組みます。版画の制作活動が最も充実していた、大正時代から昭和17(1942)年に至る時期を現大田区内の池上や矢口で過ごしました。

本作は松亭が大田区近郊の風景を描いたシリーズ作のなかの一点です。朱色の楼門と、大胆な構図が目を引き作品といえるでしょう。主題となっている仁王門(楼門)は、本門寺正面の石段を登った場所に位置するものです。門の創建時期には、天文 17(1548)年説と慶長 13(1608)年説があります。2 階建ての総丹塗りで、規模は幅約 14.4メートル、奥行約 5.4メートルでした。本作は大堂のある境内内側から描いています。昭和 20 年の空襲で焼失し、現在の仁王門は同 52 年に再建されました。

### 2 川瀬巴水「池上本門寺」 昭和 6 (1931) 年 1 月作

池上本門寺は日蓮宗の開祖である日蓮上人が入滅した後、池上宗仲が屋敷やその周辺の土地を寺領として寄進したのを始まりとしています。霊山橋から本門寺の総門に向かって描かれており、大きな松が印象的な作品です。川瀬巴水の写生帖によれば作品のスケッチが行われたのは昭和 5 年 11 月 11 日の朝で、この時に雪は降っていません。巴水は作品制作の過程で天候や季節などを変えたり、人物や動物を描き加えたりすることがありました。本作もその一つで、雪曇りの空から雪がしんと降り積もる様は、作品に静寂さを強調する効果をもたらしています。



写生帖第 30 号 池上本門寺参道 (昭和 5 年 11 月 11 日朝)

### 3 伊東深水「池上本門寺山門雪景」 昭和 15 (1940) 年作

伊東深水は明治 44(1911)年、鏑木清方に入門。若い頃から異画会や日本美術院展覧会(院展)に出品・入選し、早くから日本画家として実力を認められました。大正 5(1916)年、版元・渡邊庄三郎の勧めにより木版画の制作に取り組みます。その年の秋、赤い長襦袢の女性を描いた「対鏡」が試作されました。美人画家として知られる深水ですが、風景画も 60 点ほど制作し、伝統にとらわれず実景にもとづいた独自の表現が評価されています。大正 6 年から翌年にかけて発表された連作『近江八景』を見た巴水は版画制作を決意したとされ、大きな影響を与えています。

本作は、本門寺の南側から石段を登りきった先の仁王門(楼門)を描いたものです。主題ともなる門は几帳面に線が引かれている一方、木々や一部のハトは抽象的に描かれています。深水自身も気に入って楽しんで制作したといえます。

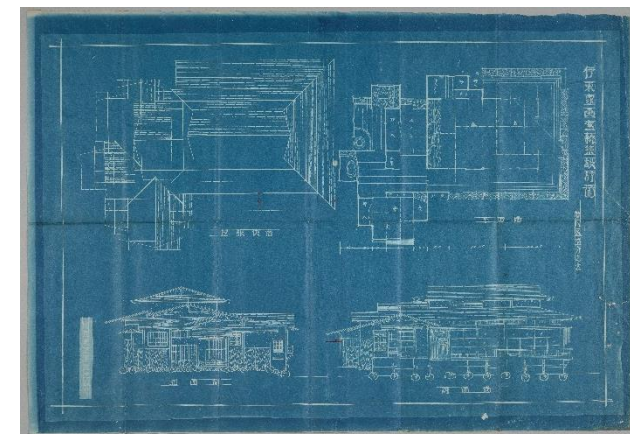


絵葉書 池上本門寺 楼門 (明治 40 年~大正 7 年頃)

### 4 伊東深水の池上の画室

伊東深水は、昭和 5(1930)年に大森区池上町下池上 111 番(現大田区池上二丁目)へ画室を新築し、翌年に自宅を増築します。画室を設計・施工したのは川尻善治(1893-1975)で、深水の画室の他に鎌倉市二階堂の瑞泉寺茶室や北大路魯山人の調理室・書斎などを手がけました。画室は三方がガラス戸に囲まれており、池上本門寺を背面にして、大きな池のある趣のある庭園があったといえます。この地で自らの制作をする傍ら、朗峯画塾を主宰して 100 人をこえる塾生の指導にもあたりました。また、鏑木清方門下の川瀬巴水や山川秀峰、小早川清らも深水の画室を訪れ、交流を深めました。

深水の画室は池上梅園内にある和室のあたりに位置していました。



川尻善治製作「伊東深画画室新築設計図」

### 5 伊東深水宅での記念撮影 昭和 11 (1936) 年 3 月 27 日

昭和 11 年に鏑木清方とその門下が深水の画室を訪れた際の記念写真です。巴水の記事によれば、一行はこの後、本門寺裏手にあった明けぼの楼で観梅し、同じく池上にあった小早川清宅を訪れています。深水は昭和 20 年 3 月に長野県へ疎開。空襲により、池上の自宅・画室はともに焼失し、戦後は鎌倉へと居を移しました。

記念写真の前列左から、鏑木照(清方夫人)、伊東好子(深水夫人)

中列左から、川瀬巴水、渡辺泰次、山川秀峰

後列左から、鏑木清方、伊東深水、小早川清



### 大田区立郷土博物館のご案内

大田区立郷土博物館は、大田区を中心とした人文科学系の博物館で、考古・歴史・民俗の各分野に関する資料を保存・展示しています。

3 階の馬込文士村展示コーナーの一部には、川瀬巴水を始めたとした新版画の画家の作品を月替わりでご紹介しています。

<交通案内>

池上梅園より徒歩 20 分、都営浅草線「西馬込」駅より徒歩 7 分

